

笛吹市探訪

『八代町岡地区』

今回の『笛吹市探訪』では八代町岡地区を紹介します。

岡地区は浅川の扇状地と曽根丘陵に続く上ノ原の丘陵地帯に位置しています。

丘陵上に位置する「八代ふるさと公園」には、岡・銚子塚古墳や盃塚古墳が復元してあります。そして、普段から親子連れなどが散歩している風景が見受けられます。

周辺には、それ以外にも古墳、遺跡がたくさんあり、一帯は一般に「銚子原(ちようしつばら)」と呼ばれています。

他にも岡地区には遺跡がたくさんあります。歩いてみると、意外と多くの文化財に出会えるかもしれません。

寺社には日蓮宗の善国寺や八幡神社などがあります。

また、起源は定かではありませんが、山梨県無形民俗文化財に指定されている舞や謡(うたい)の伝統芸能である式三番があります。

今回は、この地区の氏神である八幡神社の石造物から岡地区の歴史・文化を紹介しようと思います。

【石造庚申神殿】

神社の境内には、石で造られた



石造庚申神殿

祠(ほこら)があります。これは、笛吹市指定有形民俗文化財の石造庚申神殿(せきぞうこうしんしんでん)です。この祠は江戸時代の終わりごろに造られたもので、中には庚申待(こうしんまち)の本尊である青面金剛(しょうめんこんごう)の像が刻まれています。

庚申待とは60日に一度めぐってくる庚申の日の夜に、寝ないで過ごすことによって、長生きで達者でいられることをお祈りする行事です。

この祠によって、岡地区では江戸時代の終わりごろ、住民が集まって庚申待をさかんに行っていたことがわかります。

【石造明神鳥居】

また、境内入口には石で造られ

た鳥居があります。鳥居にはさまざまな形がありますが、この鳥居は明神鳥居(みょうしんとりい)というものです。高さは約2・7mあり、調律のとれたきれいな姿をしていることがわかります。額束(がくづか)と呼ばれるところには文字が刻まれています。それによって「この石鳥居は、延宝四年(1676)に、甚右衛門(じんえもん)という人が、大

阪の石大工の吉兵(きちべえ)という人にお願いで建てたことがわかります。

当時、山梨では長野の石大工が活躍していました。

しかし、八幡宮の石鳥居は、大阪



鳥居の額束



石造明神鳥居

の石大工が建てたもので、長野の石大工の勢力圏である山梨に大阪の石大工の進出を示すとても重要なものです。

県内には吉兵が建てたといわれている石鳥居が八幡神社以外に甲府市美咲の御崎神社、同市千塚の八幡神社、韮崎市苗敷山にあります。また、吉兵作の石灯籠が甲府市酒折の酒折宮、同市愛宕町の長禅寺にあります。

それらによって、吉兵は慶安4年(1651)から天和3年(1683)までの33年間に甲府盆地南西部を渡り歩いて石造物を造っていたことがわかります。

八幡神社の石鳥居はどのような経緯で造られたのか考えながら、県内の吉兵が作った石造物を眺めて歩くのも良いかもしれません。

今回は八幡神社の石造物を紹介しましたが、岡地区にある「八代ふるさと公園」は甲府盆地と周辺に広がる山々が一望できます。また、春には一面、淡い桜のピンク色に染まった景色が広がっています。目の前に広がる眺望を楽しみながら、ぜひ、今回紹介した八幡神社などを訪れてみてはいかがでしょうか。